

神宮大麻「天照皇大神宮」・「神社御神札」を お配りいただく神社総代・お世話係のみなさまへ

新しい年を迎えるにあたり、神社からお配りする「御神札」が各家庭・会社の神棚におまつりされますよう、本年も頒布奉仕者の皆様のお力添えをお願い致します。

日々、「御神札」を通して身近に神々をお参りして感謝の祈りを捧げ、幸せをお祈りする「家庭のまつり」は我が国古来の伝統です。

皆さまに御神札をお配り頂く際、「よくご質問を受けられること」を「Q&A方式」で取りまとめましたのでご活用ください。

一体でも多くの御神札が各家庭や会社にお祀りされるようにご協力をお願い致します。

時節柄、新型コロナウイルス感染症への対策にご配慮をいただき、一体でも多くの御神札が各家庭や会社にお祀りされるようにご協力をお願い致します。

尚、次期神宮式年遷宮のご準備のため、本年より神宮大麻の初穂料が改定されました。平成7年以来、25年ぶりの改定となりますので、趣旨ご賢察とご協力の程宜しくお願い申し上げます。

Q なぜ、御神札「天照皇大神宮」をおまつりするのですか？

A 「伊勢の神宮、を身近にお参りするためです。」

天照大御神さまは私たち「日本人の総氏神さま」として、三重県伊勢市に鎮座し、一般的には「伊勢神宮」と親しまれる伊勢の『神宮』におまつりされています。

日本神話にそのお姿は「光華明彩・六合照徹」(光うるわしく、国のうち照りとおる)と称えられ、光り輝くばかりに美しく、太陽のごとく、すべてのものに恵みを与えてくださる最も貴い神様です。

御神札「天照皇大神宮」は、遥かに「国民が朝夕神宮を敬拝するため」にとの明治天皇の思召しにより全国の神社を通じて年末にお配りされ、親しみを込め「あまてらすさま」や「おいせさま」、「神宮大麻」ともお呼びします。



「氏神神社 御神札」 うじがみさま

昔は、祖先が同じ「氏族」（血族）が、その祖先である神様や一族に特に縁の深い神様を「氏神さま」としておまつりしたのが「氏神神社」です。

また、産まれた土地の守り神様を「産土神社」とお呼びして祈りを捧げ、時代と共に「地域・郷土の守り神」は「氏神神社」と総称するようになりました。

その「御神札」が「氏神神社神符」で、親しみを込めて「うじがみさま」とお呼びする場合があります。

特に、生まれた土地を離れて生活されている場合、郷里の神社の御神札を身近にお祀りすることは、郷土愛を深める、ことにもつながる極めて意義深いことではないでしょうか。

Q なぜ年末にお神札を取り換えるのですか？

A お正月を迎えるためです。

一年の収穫・仕事の無事に感謝をし、秋の稔りを「初穂料」として神様にお供えして新しい年をお迎えするのが日本人の伝統です。

地元の神社を通じてお伊勢様に「初穂料」をお供えして、その「みしるし」として神宮大麻「天照皇大神宮」を、また氏神神社からは「氏神神社御神札」をそれぞれお受けします。

「御神札」は、神々の「お力が宿された御璽（みしるし）」であり、遥かに伊勢の「神宮」や「神社」を身近でお参りする際の「神聖な崇敬の対象」として、祈りをささげる大切なものですので、丁寧にお取り扱いください。

新しい御神札には、新しい一年をお守り頂く御神霊の力が宿されていますので、新年を迎えるために、年末大掃除で住居・会社の内外を清め、12月30日までに神社から受けた新たな御神札にお取替えしておまつりします。

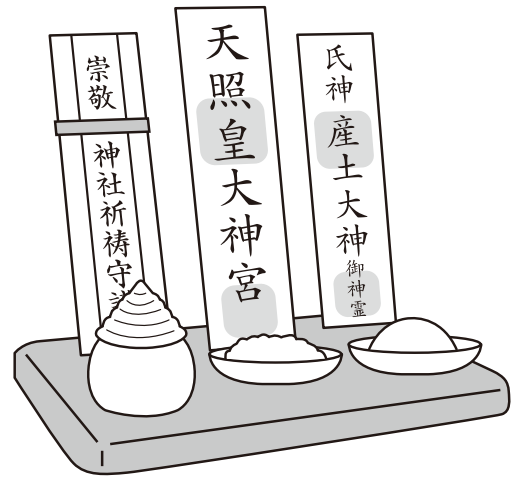
また、一年を無事に過ごせた感謝の祈りをこめた古い御神札は、神社にお納めし、「古神札焼納祭」（左義長・どんど焼き）で御神火によって焼納して皆様の無病息災が祈られます。

Q 『神棚』がまだ無いから…」と言われた場合には？

A 「手を合わせ、お参りすることから始めませんか？」とお勧めしてみてください。

「神棚」(宮形)が無くても、「御神札」は明るく清らかな場所であれば特に問題ありません」とお答えください。

棚板を設置する場所が無い・釘を打てないため設置が難しい場合などには、タンスの上など目線より高い場所にお祀りすれば大丈夫です。また、最近では壁掛けが出来る小さな宮形もあります。



アパートやマンション、新興住宅地へもお声掛け下さい

アパートやマンション、新しく造成された住宅地に住んでいる方のお宅にも神棚があり、年末に御神札が届くのを心待ちにしている方もたくさんいらっしゃいますので、是非お声掛けください。

場合によってはお声掛けがままならない建物や、自治会、町内会に所属していないところなどもありますが、神社の宮司・神職にご相談いただき、町内区域の全ての世帯・会社等にお配り下さるよう、特にお願い致します。

Q お参りの作法がよくわからないのですが？

A 『二拝二拍手一拝』の作法でお参りをします。

深いお辞儀を2回[二拝]、胸前で手を合わせ、二度しっかりと音を出して手を打ち[二拍手]、深いお辞儀を1回[一拝]します。

季節の初物や頂き物、珍しいものなどは、先ず神様にお供えしてから家族で頂きたいものです。

Q 御神札の薄い紙は？

A 「**包み紙**」ですので、**取り外してからおまつり**します。

御神札には薄い紙が巻いてあります。一見、和紙から文字が透けて見えるため神々しく感じられますが、これは御神札本体が皆様の手元に届くまで汚さないための「包み紙」です。〴〵清浄を第一、とする新しい御神札は、この薄紙を取りはずしてからお祀りするのが一般的です。

Q 家族に不幸があったのですが…？

A 「**五十日**」を過ぎてから、**通常同様におまつり**下さい。

家族が亡くなられた場合は、『忌中』として、「五十日」（仏事では四十九日）間は神棚へのお参りや神社への参拝自体も遠慮をします。

『『鳥居をくぐらない』で鳥居横の隙間から来ました』と言われる方がいらっしゃいますが、「鳥居をくぐらない」とは「神社に立ち入らない」ということを美しく言い換えた表現です。

この五十日の期間を過ぎれば、神棚へのお参りは通常通り行い、一般的には神社への参拝も通常に戻ります。

この期間にお正月を迎える場合、五十日の『忌中』が過ぎてから後、地元の神社から新しい御神札をお受けいただくようお奨め下さい。

日々の生活の中で、「神棚」は中心に位置しています。

楽しいこと、嬉しいことは神様のお蔭と感謝し、辛いこと、苦しいことは神様からの試練と受け止める〴〵心。

祖先から受け継いだ日本人としての美しい心は、生活の中に根付いています。

この美しい〴〵日本の伝統、を次代につなげるために皆様のご協力をお願い致します。

◇「御神札」や御祈願に関することは地元の神社へお問合せ下さい。

富山県神社庁

〒930 - 0088

富山市諏訪川原1丁目10番21号

電話 076-432-7390